

187
3
266

新版
新評
奈良土產逸書
上

夫 福歌の讃 仙樂に因 轉法攝乃 縁中

音 儀古徳の作 おん 田 又 竹貫 寄

て 妙なる あり 志 うれし け 此 あり 出 舞 性 とい

れ 昔 あり 百 歳の 美 とい げ 且 新 とい

り の こと あり 嘲 する 数 筒 條 あり お ぶ き 又

何 人 たり 作 する こと みる 笑 見 の ら こと あり

て しい こと あり あり あり あり あり あり あり あり

寓 言 あり あり あり あり あり あり あり あり あり

も 寓 言 あり あり あり あり あり あり あり あり あり

り あり あり あり あり あり あり あり あり あり

言



○中入の...
前

□ 節よ...
ナカバ

△ 條...
自慢

い...
ナカバ

の...
ナカバ

ま...
ナカバ

て...
ナカバ

お...
ナカバ

の...
ナカバ

法...
ナカバ

...
ナカバ

...
ナカバ

...
ナカバ

...
ナカバ

...
ナカバ

...
ナカバ

...
ナカバ

...
ナカバ

...
ナカバ

...
ナカバ

○ 新法に依りては、
てしきあり

□ 新法に依りては、
てしきあり

△ 返答に依りては、
てしきあり

— 新法に依りては、
てしきあり

— 新法に依りては、
てしきあり

— 新法に依りては、
てしきあり

□ 新法に依りては、
てしきあり

△ 返答に依りては、
てしきあり

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

□ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

△ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

□ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

△ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

○ナカ新三雅ナカ...

戻りしつづきつねぬるに幼きかたもの不審なり
と。肩は白くよかぬうらな後信の腹の中より
解の凡そしらふあり。いんや一玉の毒を
あつたものおは信とあつた。あつた地下の幼き童
楯とあつたに却てまねた。あつた。あつた。あつた。
ろろろ。評判又あつた。地下の。あつた。
おめ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
批判い。あつた。あつた。

又小袖多哉

○おめ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

□新よ。あつた。あつた。あつた。あつた。

△返答。あつた。あつた。あつた。あつた。

〰

○清。あつた。あつた。あつた。あつた。

□新。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた

△返答。あつた。あつた。あつた。あつた。

信の。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

川乃例もあり。又業平も在京氏あり。ま目の勅
使よきとらざるべし。

△返答 孝二月三月乃お遷らるるよしおちりしはのり
乃乃海り不慮の口つゝさあられ延川あり祇
園のみお礼は八月よりありしはあぞ。おきくよ
あはれいとおもふくくもあはれい。又ま京氏ちり乃勅
使ありまどさくさひらきよせ一住四姓とつらの可まはれ
さうりあり。まねと三代實録よりく業平者及四
阿保親王亦みよ正三位中納言の平之弟也。阿保
親王娶桓武天皇女保登内親王生業平。天長三

年、親王上表曰、吾弟も岳親之男先停王号賜
朝臣始、臣之子息味領改姓、既、お白比才之子、寧
異、齒列之君、於夏詔、仲平行平守平等、賜
在京朝臣、まよくく三代を考ておんやれも
上業平、南宮乃京ま白乃里、八領地をれを各別
乃儀也。又、透額乃冠乃のさして、親授とさしなぬ
もの難れまきくさうさう。今内をりつむ
の格よまふさあり。むしを、齒の格よまふ
む。ま上業平よりあはれ殿とく元服、透額
つものありしや。まをかしてえまされし人

よき事と云ふ事ありてはよしと云ふ事ありてはよし
くぐりしは又かよふ事ありてはよしと云ふ事ありてはよし
まじりてはよしと云ふ事ありてはよし

十二卒都波安所

○冬とねね家いえ秋あきのと月つき桂けいのと舟ふね漕こりんと
けん

□新あらたままりりくく所ところななるるのの母はは家いえ秋あきののららんんと
△返かへ春はる秋あきののららんんとと多おほねねははららぬぬ事ことののおおままららぬぬ
とと多おほねねははららぬぬ事ことののおおままららぬぬ
れれららぬぬ事ことののおおままららぬぬ

アアららんんとと多おほねねははららぬぬ事ことののおおままららぬぬ
とと多おほねねははららぬぬ事ことののおおままららぬぬ
のの代しろりりとと多おほねねははららぬぬ事ことののおおままららぬぬ
わわららぬぬ

十三安色

○美うつくししくくららんんとと多おほねねははららぬぬ事ことののおおままららぬぬ
ああららぬぬ

△在あららんんとと多おほねねははららぬぬ事ことののおおままららぬぬ
批ひ判はんあららぬぬ

和わららぬぬ事ことののおおままららぬぬ
ああららぬぬ

○丹波少納言平朝成入道康成二人兼教先河
教兼也

□新兼より平朝成入道康成を平朝成康成
入道とては伴兼より兼とては下畧

△返春 向後これより平朝成より兼とては法
名を兼とては入道とては実名を兼とては法
名とてはぬとては兼とては康成が改せ
時の方兼。世は兼とてはぬとては兼とては
つては兼とてはぬとては兼とては

十九雲梯院

○名二月やまの首を月に入らぬとては兼とては
り兼

□新兼より花車兼風流兼をつつとては兼とては
より兼とては兼とては兼とては

△返春 我兼とては兼とては兼とては兼とては
ぬとては兼とては兼とては兼とては兼とては
とては兼とては兼とては兼とては兼とては
むとては兼とては兼とては兼とては兼とては
内兼とては兼とては兼とては兼とては兼とては
何兼とては兼とては兼とては兼とては兼とては

人々を治るるに法を以てしるるは其の道也
治るるに法を以てしるるは其の道也
治るるに法を以てしるるは其の道也
治るるに法を以てしるるは其の道也

二十六年

○ 叙世曰くは誰かあるを治るるは其の道也

一

□ 難といく盛徳がものも治るるに法を以てしるるは其の道也
不使よいかんがものも治るるに法を以てしるるは其の道也

△ 返答しては治るるに法を以てしるるは其の道也
なり。候。訪也。叙名候。護也。司護。諸事也。と云

一 治るるに法を以てしるるは其の道也
でハチのいぞ。さやんごめ。の治るるに法を以てしるるは其の道也
勤まり。候。訪也。叙名候。護也。司護。諸事也。と云
よ。の。な。り。と。云。は。治るるに法を以てしるるは其の道也
一 や。ふ。で。あ。る。を。治るるに法を以てしるるは其の道也
ぬ。ま。り。と。云。は。治るるに法を以てしるるは其の道也
志。し。み。と。云。は。治るるに法を以てしるるは其の道也
あ。れ。と。云。は。治るるに法を以てしるるは其の道也
伺。と。云。は。治るるに法を以てしるるは其の道也

とほづらう。氣遠く回春すかよ同く飛まねた
ねずと他よあそびよもいらぬかてさるせらあり。
さて今春よふとつれてり波のいあら。それ
波の氷とつてきれたねむらう。さうらうの
不登こまてねむらう。波とつて海
しきもあつとつらう。波は川よふさぬの。波
ハ春の波あり。毛花を波もえな。波とつて白
菊と波のよすらう。おのたと垣根の波
とと春と波もよあら。さうらうの
かどのよの波とねむらう。さうらうの
波の氷とつてきれたねむらう。

ふあつとつてきれたねむらう。
とつてきれたねむらう。氷の氷と
つてきれたねむらう。波の氷とつてきれた
よ。何とつてきれたねむらう。さうらうの
子方より批判。そらうのさうらうの
○千尋の底よ河よ。さうらうのさうらうの
のさうらうのさうらうのさうらうのさうらうの
百あつてし。

二十一小智

○今春いつく半登の夜のせよよ入せぬのさうらう

南殿ミナミノミヤよりあうさせ給ひん

□新ニホくまりく南殿ミナミノミヤよりあうさせ給ひん。紫震殿ムラサキノミヤのりく。紫震

殿ミヤへハかりりとあしおつぎまあくせあふふあわりとと

△返答 偏居ヘンキョより侍サマ刺さし。南殿ミナミノミヤよりあうさせ給ひん。紫震殿ムラサキノミヤ

とすぐまりふらとついさまりあれじまらちやめ

りして。ゆのやら通の紫震殿ムラサキノミヤよりあうさせ給ひん。

△紫震殿ムラサキノミヤよりあうさせ給ひん。紫震殿ムラサキノミヤよりあうさせ給ひん。

かぎりりといひまりし。近チカのミ後ノ樂ガクありし時は紫震殿

までお脚ツキありしといひまりし。紫震殿ムラサキノミヤよりあうさせ給ひん。

なり幣ハタよりあうさせ給ひん。紫震殿ムラサキノミヤよりあうさせ給ひん。

一いちはちの大ダイ樹ジュのノ脚ツキ身ミよりあうさせ給ひん。

○むらまのつらといひまりし。

二十二 跡本

□佐野サノ乃ノ名ナを領じらる人は持合ヒとらふの時トキ

もあふふなまといひまりし。

△いましのゆめといひまりし。持ヒとらふの時トキ

いましのゆめといひまりし。持ヒとらふの時トキ

何ナニがしの院といひまりし。持ヒとらふの時トキ

といひまりし。持ヒとらふの時トキ

もし来し巻別ありては、
その不審がさるり。されど、

○親世をあられや、
今此の實乃、

□新よいく伺つて、
今此の實乃、

△返答は、
唇をりしと、

○ワキは、
そ。おぬ、

△返答は、
唇をりしと、

○ワキは、
そ。おぬ、

△返答は、
唇をりしと、

○ワキは、
そ。おぬ、

△返答は、
唇をりしと、

○ワキは、
そ。おぬ、

△返答は、
唇をりしと、

○ワキは、
そ。おぬ、

△返答は、
唇をりしと、

○ワキは、
そ。おぬ、

△返答は、
唇をりしと、

○ワキは、
そ。おぬ、

△返答は、
唇をりしと、

○ワキは、
そ。おぬ、

△返答は、
唇をりしと、

○ワキは、
そ。おぬ、

一。きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを
上りもくと下りもくとしるしをたもてしるしをたもてしるしを
うすす。きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを
まけいねうまにぬしおのころしおのころしおのころし
のしるしをたもてしるしをたもてしるしをたもてしるしを
しるしをたもてしるしをたもてしるしをたもてしるしを
とす。きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを
まけいねうまにぬしおのころしおのころしおのころし
れぬ。きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを
あつた。きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを

のしるしをたもてしるしをたもてしるしをたもてしるしを
のしるしをたもてしるしをたもてしるしをたもてしるしを

○きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを
きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを
しるしをたもてしるしをたもてしるしをたもてしるしを

△返答 葉花を。きりなごのしるしをたもてしるしを
きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを
きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを
きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを
きりなごのしるしをたもてしるしをたもてしるしを

くりくあより文句うづり。よめわけ徳とんず
 よハあまゝていんていんていんていんていんていんていんていん
 ー。とれあれいんていんていんていんていんていんていんていん
 筆多り。内裏の笈は後よ太靴とらうらよよらぞと
 素よあせせてあせりし不審とらうらけ編
 士太靴の徳六七通はより奥まで。よもいんていん
 一は女房よ若きせせのかりかり。あまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 ぬ鳥よあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 えては後とよあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 ありからあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 夜の夢

だまあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 たらあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 一はあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ

□ 七次乃箱よりうづり編はあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 一はあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 たらあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 として封てのりあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 中居らうらや。女佐の男あまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 ずあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ
 くらあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝあまゝ

る程はあはれなるはなほあはれなるはなほあはれなる

○うそやくくそ^{ウソ}責^{ツク}鞭^{ツク}あはれなるはなほあはれなるはなほあはれなる

□新^ニよらくそ^{ウソ}あはれなるはなほあはれなるはなほあはれなる

らこのあはれなるはなほあはれなるはなほあはれなる

ちあはれなるはなほあはれなるはなほあはれなる

味^{アジ}あはれなるはなほあはれなるはなほあはれなる

△返^ヘ答^コを^カ得^{トク}る^ル所^{トコロ}の^ノ又^{マタ}背^セある^ル不^フ審^{シン}と^シて^シん^ニび

うそ^{ウソ}の^ノ教^{カク}ゆ^クべ^ク。あ^アら^ラハ^ハ咄^{ウタ}と^シて^シあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ

うそ^{ウソ}の^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

く^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

程^ハあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

うそ^{ウソ}の^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

風^{カゼ}の^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

ら^ラの^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

鉄^{テツ}の^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

うそ^{ウソ}の^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

ら^ラの^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

うそ^{ウソ}の^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

ら^ラの^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

うそ^{ウソ}の^ノあ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。あ^アら^ラハ^ハま^マが^ガづ^ズく^クそ^ソふ^フ。

しほのうらみしめれよ。うづらうてあはれし
かぐらひ古文三解のしうづらうかぐらひ
よ。うづらう。うづらう。うづらう。うづらう。
しほのうらみしめれよ。うづらう。うづらう。

二十七景清

○とていふもなむたのうづらう。うづらう。

□新よのうづらう。うづらう。うづらう。うづらう。
しほのうらみしめれよ。うづらう。

△返答のうづらう。うづらう。うづらう。うづらう。
まじりてうづらう。うづらう。うづらう。うづらう。

口。うづらう。うづらう。うづらう。うづらう。
白。うづらう。うづらう。うづらう。うづらう。
うづらう。うづらう。うづらう。うづらう。
お。うづらう。

二十八蓋州

○うづらう。うづらう。うづらう。うづらう。
新返答のうづらう。

二十九七隈島

○今昔曰松浦はよ。うづらう。うづらう。うづらう。
うづらう。うづらう。うづらう。うづらう。

187
3
266

上

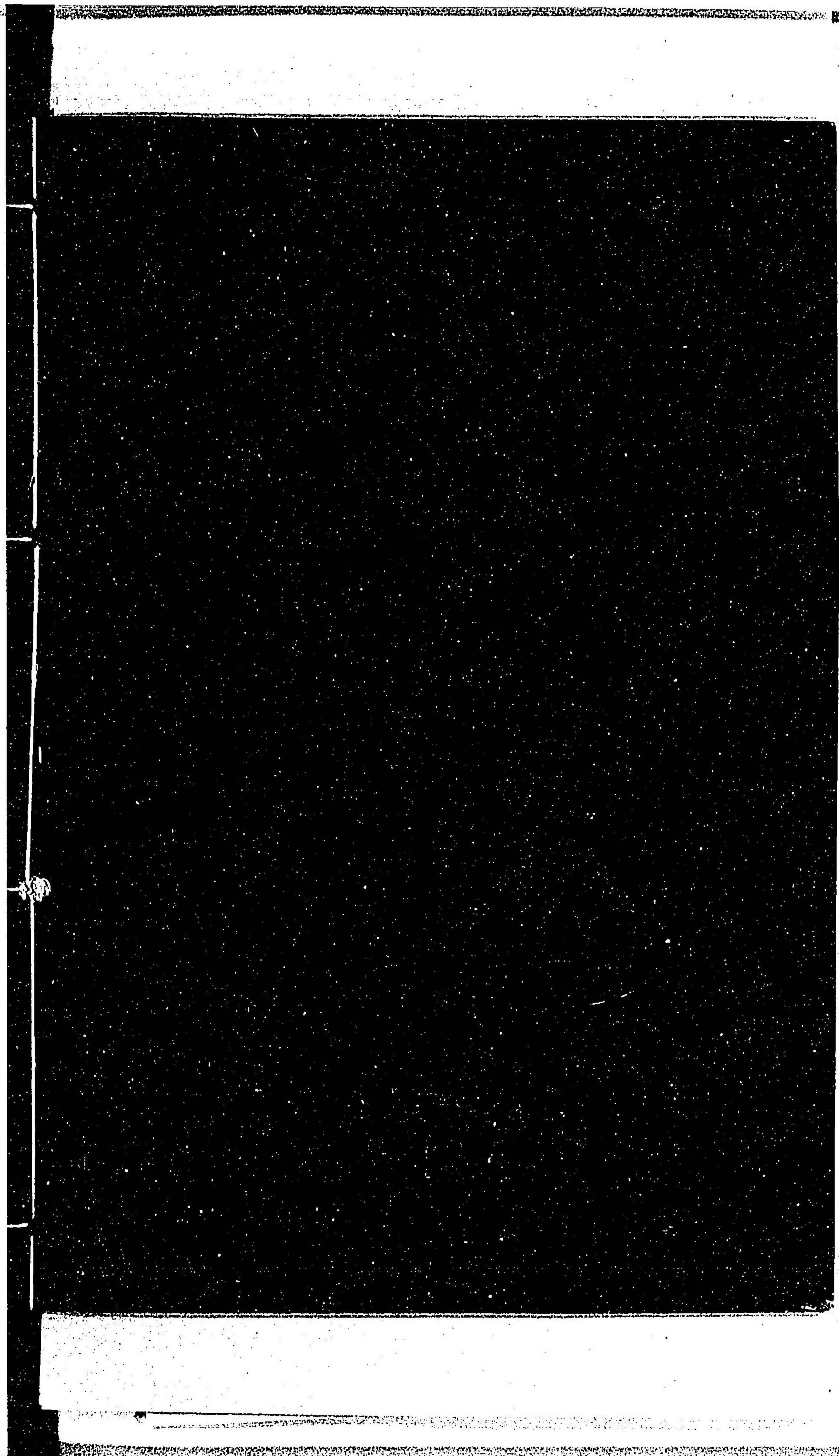
三才

○ 叙世曰「昔有...」

○ 今昔曰「昔...」

□ 新よりく返答...

△ 遊春 春し報もたよむ...
てたりせ 上巻終



075029-001-7

187-266

奈良土産返答

桧常之助

M36

CEL-0959

